



《小狐登場》1948年

生誕一〇〇年！

植田正治の

つくりかた

UEDA SHOJI 100th anniversary

2013年10月12日|土| — 2014年1月5日|日|

休館日：月曜日（祝日の場合は開館、翌火曜休館）、12月29日—1月1日

開館時間：10:00—18:00（1月3日を除く金曜日は—20:00）＊入館は閉館30分前まで

入館料：一般900円、高校・大学生700円、小学・中学生400円 ＊20名以上の団体は100円引 ＊障害者手帳等を持参の方は100円引、その介添者1名は無料

主催：東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団） 監修：金子隆一（写真史家、東京都写真美術館専門調査員） 協力：植田正治事務所

東京ステーションギャラリー





《素山子》1950年



《風船をもった自画像》1948年頃



《パパとママとコドモたち》1949年



《「小さい伝記」より》1983年



《「砂丘モード」より》1983年



《「白い風」より》1981年

日本を代表する写真家の一人、植田正治(1913-2000)が生誕100周年を迎えました。故郷である山陰地方を生涯の拠点としたことで知られ、平面的に人物を配置した独特な演出写真で絶大な人気を誇るこの写真家を回顧する本展の主題は、「植田正治のつくりかた」です。

植田はまさしく精妙につくられた世界観によって人々を魅了してきました。植田正治という写真家は、どのようにひとつひとつの作品をつくりあげていったのか。そして植田という写真家は、いかにして形づくられたのか。新発見の作品を含む代表作約150点の作品を通じて、その秘密に迫ります。

一連のユニークな作品が生まれた背景、手法や作品の変化、そしてその受け入れられ方を見返すとき、「砂丘の写真家」という固定されたイメージは解放されることでしょう。親しげな印象の反面で、一筋縄ではいかないこの写真家を読み直す機会にご注目ください。

[関連イベント]

すべて申込不要、聴講無料(別途要入館料)

●講演会「回想・植田正治」10月26日(土)
金子隆一(本展監修者)、高谷典子(島根県立美術館学芸課長)

●講演会「再考・植田正治」11月9日(土)
土屋誠一(美術批評家、沖縄県立芸術大学講師)、
成相肇(当館学芸員)

講演会はいずれも18:30-20:00(閉館後) 2F展示室
定員60名(当日17:00より整理券配布)、途中入場不可
本展チケット半券をお持ちの方は入館料免除
18:00以降展示はご覧になれません。

○ギャラリートーク(展覧会の解説)

10月18日(金)、11月15日(金)
各日とも15:00-15:30 3F展示室より開始
混雑時には人数を制限する場合がございます。

○フレンドリートーク(当館の建物の解説)

10月25日(金) 18:30-18:45 2F休憩室より開始
混雑時には人数を制限する場合がございます。

*本展は、2014年春に岩手県立美術館に巡回いたします。

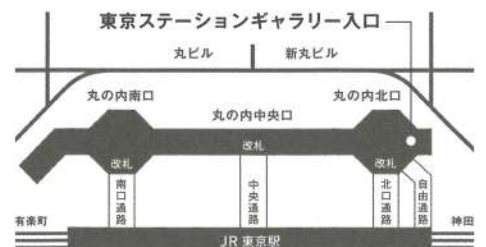
[次回展]

「プライベート・ユートピア ここだけの場所」
ブリティッシュ・カウンシル・コレクションにみる英国美術の現在」
2014年1月18日(土)-3月9日(日)

[植田正治生誕100年関連企画]

「植田正治とジャック=アンリ=ラルティエグ 写真であそぶ」
東京都写真美術館
2013年11月23日(土・祝)-2014年1月26日(日)

生誕一〇〇年！ 植田正治の つくりかた



交通: JR 東京駅 丸の内北口 改札前(東京駅丸の内赤煉瓦駅舎内)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

東京ステーションギャラリー: 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
Tel. 03-3212-2485 Fax. 03-3212-2058
<http://www.ejrcf.or.jp/gallery/index.html>